

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-8680

住 所 川崎市川崎区鈴木町1番1号

氏 名 味の素食品株式会社

取締役社長 辻田 浩志

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素食品株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区鈴木町1番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	調味料の製造、スープ類、その他食品の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	26,331	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況(第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 42,526 (調) 42,406	(実) 43,189 (調) 43,067	(実) 41,549 (調) 41,408	(実) 45,719 (調) 45,706	(実) 41,250 (調) 41,134
削減率		(実) -1.6% (調) -1.6%	(実) 2.3% (調) 2.4%	(実) -7.5% (調) -7.8%	(実) 3.0% (調) 3.0%

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(任意記載)

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量原単位等の値	0.3939	0.4041	0.3894	0.4333	0.3821
活動量の値	107949	106874.7515	106677.1	105502.7	-
排出量原単位等の削減率		-2.6%	1.1%	-10.0%	3.0%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	<p>【川崎工場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準年度作成時には法人毎に計上できなかった温水に関わるエネルギーを第一年度から計上。排出量2.6%及び原単位5.5%増加。基準年度と同じく温水を抜いて評価をした場合には、排出量0.7%減少、原単位1.8%増加となる。原単位増は生産量2.7%減少が影響。 <p>【高津工場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気使用量は微増したがガス使用量が減少し、TOTALでは基準年度の96.8%の排出量。また生産量も106%と増加したことにより、原単位では基準年度の91.3%であった。 	
第2年度	<p>【川崎工場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量はコロナ禍の影響もあり、4.7%減となり、都市ガス使用量が16.1%減、産業用蒸気9%減となったが、TOTALのCO2排出量は2.6%減だったが、生産原単位で2.2%増となった。(基準年度は温水を計上していない) 基準年度と同じく温水をぬいて評価した場合には、CO2排出量6%減少、原単位は1.4%減少 <p>【高津工場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準年度と比較し、電気使用量は微増、ガス使用量は同等であったが、電気の排出係数が低下したことにより、TOTALの排出量は1%減。また、生産量12.8%増加により、原単位は12.2%減となった。 	
第3年度	<p>【川崎工場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量は、事業計画の高津工場機能移転新工場の段階的稼働が始まり、基準年度比120%増、都市ガス使用量が158%増、産業用蒸気1%減、電気%となったが、TOTALのCO2排出量は基準年度比120%増の結果となった。生産原単位についても同様の事から、基準年度比103%という結果となった。 <p>【高津工場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年9月 高津工場閉産に伴い、高津単独での温室効果ガス排出量は、基準年度に対し、約7割減と大幅に削減された。しかし、原単位については、基準となる高津工場での包装数量が極めて少なかったことから、基準年度比420%という結果となった。 	
<p>計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>		<p>排出量増減の結果は上記の通りだが、高津工場機能移転新工場建設において、以下の設計コンセプトに基づき工場建設、生産機能移転を実行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生産性向上：旧工場比 1.6倍 (製造・包装一貫生産、ICT・自動化、先端技術導入、製造・包装ラインの整流化等) ②ICT・自動化技術活用：旧工場比 自動化率25%向上 ③生産能力増産：生産品販売増に対応し旧工場比 2,500t/年増
<p>上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)</p>		<p>事業計画による工場移転・増築、生産ライン移設や設備投資など、2022年度まで大きく事業環境変化が見込まれる。その変化が一通り実行後、2022年度を再基準年度とし、現単位削減にむけた今後の改善対策計画の見直しが必要であると思われる。</p>

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況(全社目標)(任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制 ISOの仕組みとして確立されている。 全社での環境管理検討会にて、情報交換を行う。 ○主要設備の保安全管理 管理標準をもとに定期的な保守・点検の実施及び記録の管理を行う。 ○空調機の管理 事務所棟の室内温度は冷房28℃、暖房20℃に設定し管理する。 また、法定点検の実施や、フィルター洗浄等を確実にこなす。 ○照明設備の管理運用 管理標準をベースにエリア毎に照度を維持する。 点灯管理を実施し、不要時は照明の消灯を実施する。 年2回照度測定を実施、保守点検を維持するとともに記録に残す。 また、更新時はLED照明を採用する。
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制 2020年度ISO再取得に向け、推進体制を確立し、活動を開始した。 ○主要設備の保安全管理 定期的な保守・点検及び管理を実施中。 ○空調機の管理 事務所棟の温度設定を細目に調整し、省エネ活動の実施。 ○照明設備の管理運用 照明設備は環境測定(2回/年)による照度チェックと、不要時の消灯および人感センサーによる消灯を実施している。また、照明のLED化を実施。
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制 ・2020年11月20日ISO14001 2015年度版取得(川崎工場) ※高津工場は閉鎖予定の為取得せず。 ○主要設備の保安全管理 ・設備管理については、保全計画を基に法定点検、定期点検、日常点検を継続実施している。 ○空調機の管理 ・事務所棟の温度設定を細目に調整し、省エネ活動の継続。 ○証明設備の管理運用 ・照明設備は環境測定(2回/年)による照度チェックと、不要時の消灯および人感センサーによる消灯を実施している。 また、照明のLED化を実施。
<p>第3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制 ・2020年11月20日ISO14001 2015年度版取得(川崎工場) ※高津工場は閉鎖予定の為取得せず。 ○主要設備の保安全管理 ・設備管理については、保全計画を基に法定点検、定期点検、日常点検を継続実施している。 ○空調機の管理 ・事務所棟の温度設定を細目に調整し、省エネ活動の継続。 ○証明設備の管理運用 ・照明設備は環境測定(2回/年)による照度チェックと、不要時の消灯および人感センサーによる消灯を実施している。 また、照明のLED化を実施。 ○高津エリア閉鎖対応 製造設備・ボイラ含めた主要設備等を速やかに停止、必要最低限のエネルギー使用で、撤去を実施。
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>事業計画による工場移転・増築、生産ライン移設や設備投資など、2022年度まで大きく事業環境変化が見込まれる。その変化が一通り実行後、2022年度を再基準年度とし、現単位削減にむけた今後の改善対策計画の見直しが必要であると思われる。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ企業を中心にモーダルシフトに取り組み、集積効率の向上や一部得意先への定期配送化による配送車両の削減等を行い、荷主の義務である輸配送に伴うエネルギー使用量の原単位を5年間平均年間1%以上削減を目指す。
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルクラン推進により原料配送車両台数の低減を実施。 ・パレット配送の集約化により車両台数の低減を実施。
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルクラン推進により廃棄物収集運搬業者の車両低減を実施。 ・各運搬会社に環境に配慮した運搬の推進を実施。(エコ運搬制度の推進)
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルクラン推進により廃棄物収集運搬業者の車両低減を実施。 ・各運搬会社に環境に配慮した運搬の推進を実施。(エコ運搬制度の推進)

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. グリーン購入の推進を行う。 森林生態系破壊リスクを考慮した紙資材の調達 2. 廃棄物の減量化、分別化の推進を図る。 3. 廃棄物の有効利用を促進する。
第1年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. グリーン購入。 2. トラブル防止による廃棄物減量化を推進した。 3. 廃棄物の肥料化、飼料化を推進した。
第2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. グリーン購入推進 2. トラブル防止による廃棄物減量化を推進 3. 廃棄物のメタンガス化に処分依頼を実施。 4. 服装軽装化(スーパークールビズ)の実施
第3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. グリーン購入推進 2. トラブル防止による廃棄物減量化を推進 3. 廃棄物のメタンガス化に処分依頼を実施。 4. 服装軽装化(スーパークールビズ)の実施

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	42,526 t-CO ₂	43,189 t-CO ₂	41,549 t-CO ₂	45,719 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	25,031 KL	25,470 KL	24,785 KL	26,331 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
川崎工場	川崎市川崎区鈴木町1-1	34,809	35,717	33,911	43,179
高津工場	川崎市高津区下野毛二丁目12番1号	7,717	7,472	7,638	2,540

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度